

| 街なかで聞いた30人の「声」 | | |
|-----------------------|-------|-----------------------------|
| 「声」を聞いた人 | いつ来た | 街へ来て思ったことや地震で感じたこと |
| 中央区大通町の70代女性 | 4月16日 | 熊本城があんな姿になって寂しい |
| 中央区手取本町の女性自営業者(66) | 17日 | アーケードは静まり返っていた |
| 南区川尻の女性(89) | 17日 | すぐ避難できるようにドアを開けたまま寝ている |
| 西区池亀町の男性会社員(53) | 17日 | 災害への備えの大切さを学んだ |
| 中央区黒髪男性(65) | 17日 | まるでゴーストタウンだった |
| 西区池田の女子中学生(14) | 19日 | 5月9日に学校再開。そろそろ受験勉強を |
| 中央区大江の主婦(66) | 20日 | 小さな揺れでも起きてしまい、睡眠不足 |
| 中央区新町の女性飲食店員(54) | 20日 | 飲み水の水質に気をつけるようになった |
| 中央区帯山の女性洋服店員(26) | 22日 | 危機管理について深く考えた |
| 中央区帯山の女性(71) | 23日 | 閉まっている店は多いのに人通りは多かった |
| 益城町の女子高校生(17) | 23日 | 街の建物が思ったより壊れておらず驚いた |
| 西区島崎の女子高校生(16) | 23日 | 思っていたより人がいた |
| 八代市の男性土産物店主(61) | 25日 | 人は少なかったが顔見知りには会った |
| 中央区九品寺の男性(63) | 26日 | ひびの入った自宅マンションで寝るのが怖い |
| 中央区黒髪の英国人男性(31) | 30日 | アーケードを歩いている人の顔が疲れていた |
| 合志市の女子大学生(20) | 30日 | 午後6時すぎには大半の店が閉まっていた |
| 西区の女子高校生(16) | 5月7日 | コーヒー店に人がいっぱい並んでいた |
| 中央区大通町の40代女性 | 7日 | 本震時は米国。がれき撤去が早いという印象 |
| 宇城市の男子高校生(17) | 8日 | 思っていたより街はひどくなかった |
| 中央区琴平の60代女性 | 9日 | 自宅の瓦が半分なくなった |
| 八代市の男子大学生(21) | 9日 | 百貨店やファストフード店が閉まっていた驚いた |
| 中央区京町の女性(82) | 13日 | 地震後しばらく、バスが運行していなかったのが大変だった |
| 中央区迎町の女性(80) | 14日 | 熊本城がひどい。断水が困った |
| 中央区出水の男性会社員(55)、妻(54) | 16日 | 老舗ホテルが閉まっていることが悲しい |
| 合志市の主婦(45) | 16日 | 水やガスのありがたみを感じた |
| 中央区男性(79) | 16日 | 街なかには催しもあって日常と変わらなかった |
| 南区護国町の男性会社員(38) | 16日 | 最低限の備蓄や避難経路の確認が必要と感じた |
| 埼玉県の男性会社員(26) | 16日 | 熊本の人に「頑張ってください」と言いたい |
| 玉名市の男性(19) | 16日 | 店が営業していてすごいなと感じた |

肩書、年齢、コメントなどは調査日(16日)現在



新市街にあるSCB放送局の学生たちがテーマを決めて、街なかでさまざまな「声」を集める「声Labo」が

始まりました。1回目のテーマは「熊本地震の本震発生後、初めて街に来た目的は」です。

本震後、初めて街に来た目的は？



熊本地震で中心繁華街も被災したが、人通りも増え、にぎやかさを取り戻しつつある＝5月20日、通町筋

「職場は大丈夫か」「食料はなにか」。今回「声」を聞いた30人のうち、4割の12人が本震発生1週間以内に街に来た。街なかに美容室を開店させたばかりの女性(66)＝中央区手取本町＝は本震翌日の17日、被災状況確認のため店舗へ向かった。「アーケードは静まり返っていた」。店の姿見ガラスは割れていたが被害は思ったほどではなかった。しかし、店舗の入っているビルが応急危険度判定で危険を示す「赤紙」が、後日張られたため営業再開ができないう状況だ。今は美容室の移転先を探している。

南区川尻の女性(89)も17日に「誰かと話したい」と街に出掛けた。その後も人がたくさんいる街なかに出て、さまざまな人とおしゃべりを楽しんでいるという。20日に食料などを買いに来た主婦(66)＝中央区大江＝は家が損壊し、母親らと10日間ホテルに泊まった。「ホテルでは小さな揺れでも起きてしまい、睡眠不足になった。母親は体調を崩してしまった」。

自宅が半壊し、大津町の親戚宅に避難していた益城町の女子高校生(17)は1週間後、街なかへ食料の買い出しに。「街では建物があまり壊れていないことに驚いた」と、震度7を2回経験している。



2、3週間。時がたつと街にも少しずつ「日常」が戻ってきた。

合志市の女子大学生(20)は2週間後、友人と街へ。昼は洋菓子店でケーキを買い、夕食は居酒屋に行った。ただ、「夕方6時すぎには大半の店が閉まっていた寂しかった」という。

西区の女子高校生(16)は3週間後、友達と洋服を買った。「普通にショッピングを楽しみたかった」。中央区琴平の60代女性はその後、孫6人を連れてホテルでランチ。「休校が長引き、孫たちほどにも出掛けなかったのだ」。同区迎町の女性(80)は5月14日、この日営業を一部再開した鶴屋百貨店本館を一部再開した鶴屋百貨店本館

「思ったより人通りが多くてびっくりした」と話す。

食料の買い出しに / 誰かと話したい / 久しぶりの蜂楽饅頭

SCB放送局取材班から

街頭アンケート初挑戦のメンバーは苦戦しましたが、通行人の皆さんは快く協力してくれました。熊本地震から1カ月。県民に笑顔が戻り、元気いっぱいの熊本が街なかにかくさんあるように感じました。(早水湧一郎)

「食バ物を買に行っった」。

街なかで「声」を聞いたのは本震から1カ月目の16日。この日を「区切り」として街へ出掛けた人も多かった。

会社員男性(55)＝同区出水＝は16日、妻(54)と街の様子を見に来た。「久しぶりに蜂楽饅頭を食べておいしかった」と笑顔を見せた。自宅近くのショッピングセンターが営業再開できない状態だとうい。

上通アーケードで立ち止まり様子を見ていたのは、埼玉県の男性会社員(28)。余震が少し収まってきたようなので、16日から1泊2日の旅程で熊本に来たという。「熊本城を見て驚いた。被害の大きかった益城町まで行ってみたい」。熊本の現状を同僚など周囲の人たちに伝えたいという。

上通町のびぶれず広場で土産を16日から販売している土産物店主の男性(61)＝八代市＝は、前震のあった4月14日もこの広場に店を出していたが、15日朝に慌てて店を撤収。本震後は4月25、26日に出店した。人通りはいつもより少なかったが、常連さんや顔見知りの人に会い、「無事だったね、よかったね」と声を掛け合った。総菜が飛ぶように売れたという。

本震発生から1カ月たった今では人通りは少しずつ増えたというが、「一見、普通に見えるが、みんな心の中に不安やストレスを抱えているんじゃないかな」とおもひはかり、接客でも会話をたたくようにしているという。

◇SCB放送局学生取材班 新市街にある崇城大学SCB放送局スタジオで活動している複数の県内大学の学生がメンバーです